

中期経営計画 (2016年 4月-2019年 3月)

2016年 7月 8日



株式会社 図 研

東証一部上場 証券コード 6947

目次

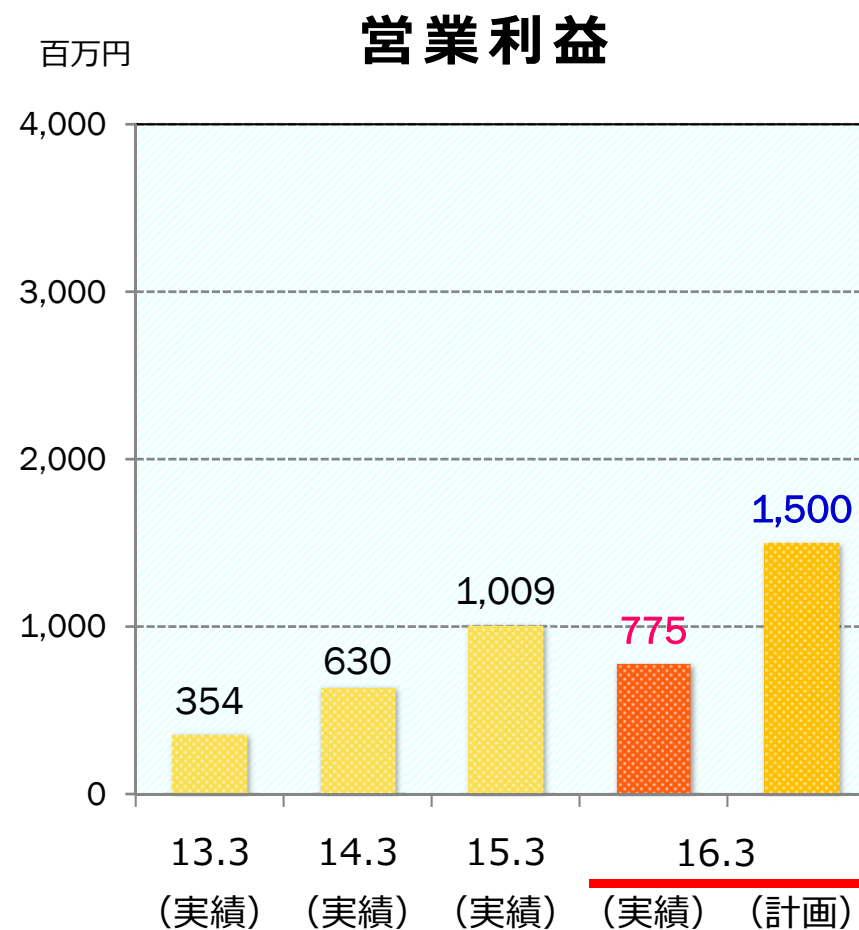
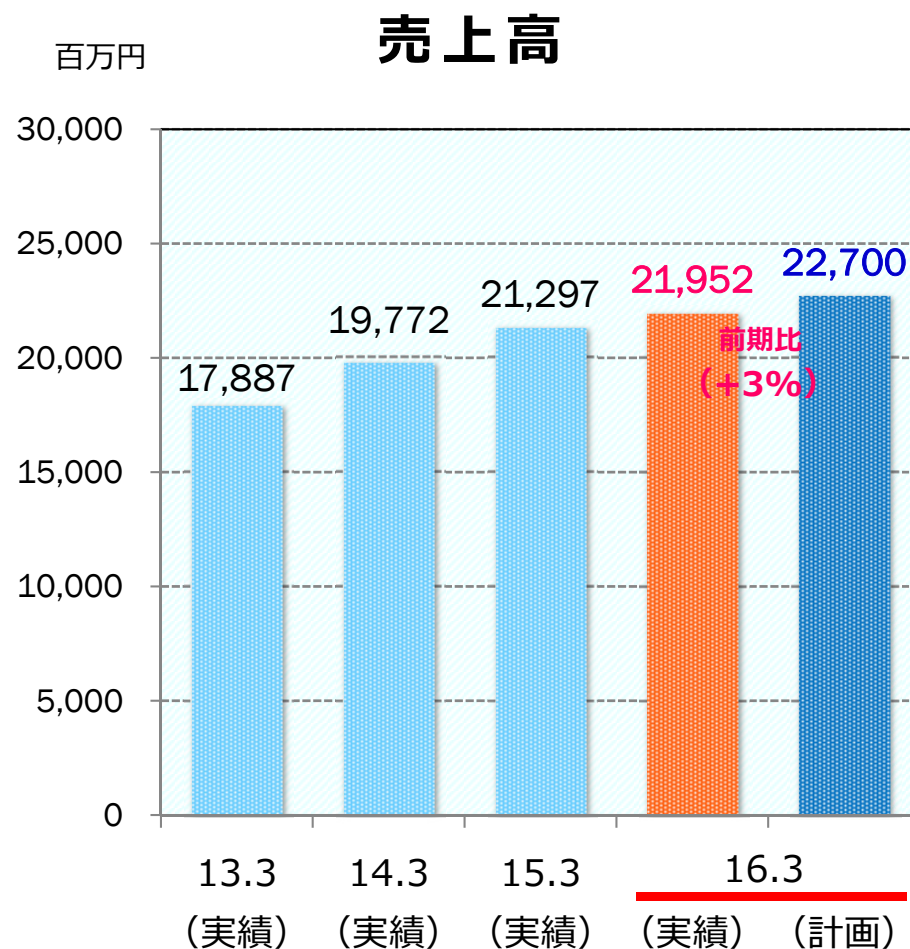
- 前中期経営計画の振り返り
- 新中期経営計画

【ご参考資料】図研について

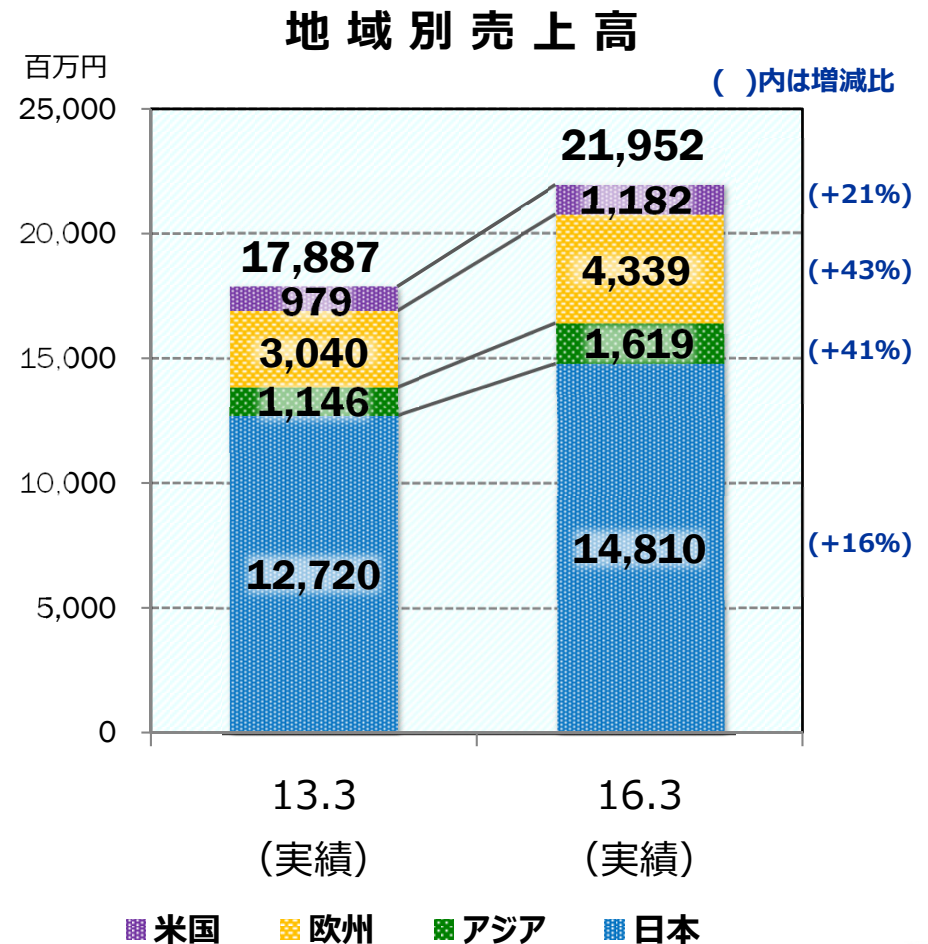
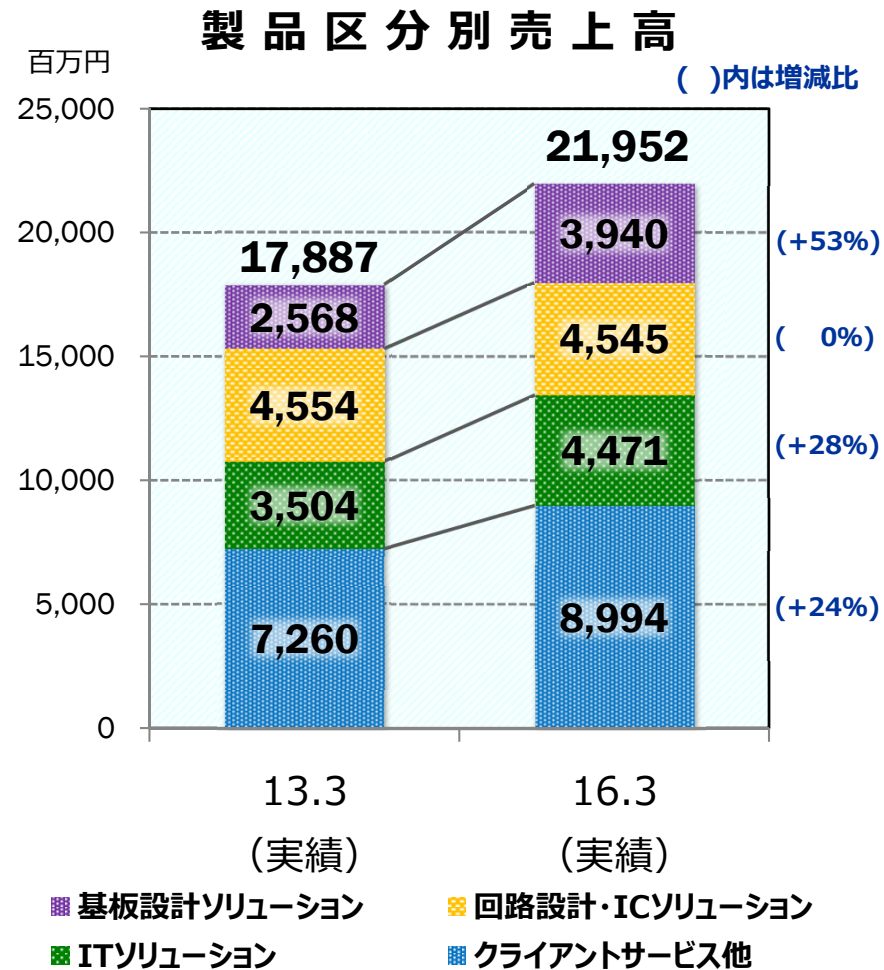
前中期経営計画の振り返り



1. 前中期計画（最終）と実績推移



2. 前中期計画 製品・地域別3力年実績比較



3. 前中期計画期間での成果と課題

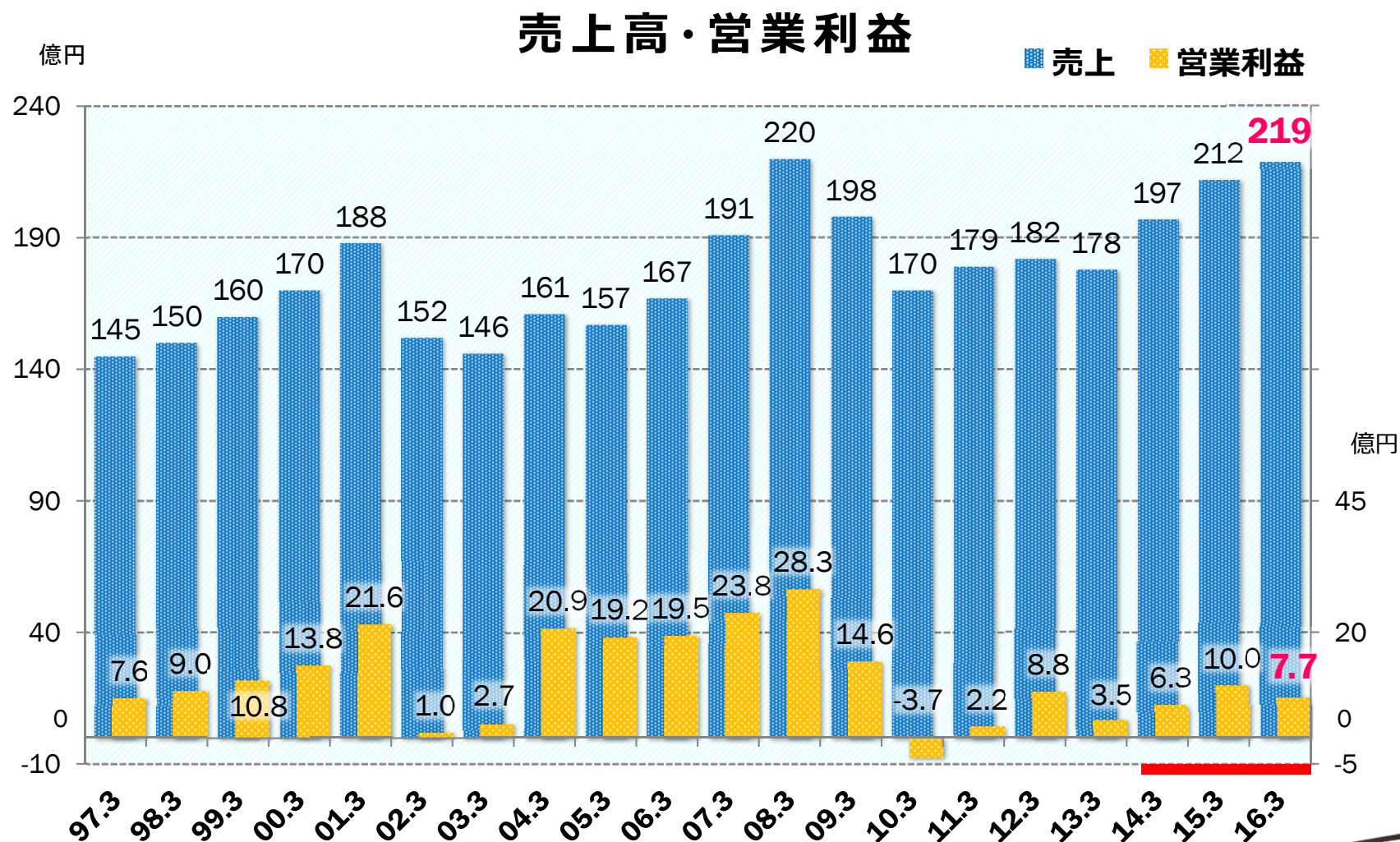
成果

- EDA新製品「CR-8000 Design Force」が、基板設計の主力製品として立上げ成功
- SOZO Centerによる北米戦略顧客とのビジネス開拓成功
Intel、Qualcomm、MS他
- 次世代自動車電装設計ソリューション開発体制構築
日独開発拠点協調で新製品開発進展

課題

- 新製品の開発増と前倒しによる利益率低下
- CAD新製品依存の売上拡大（国内）
- 北米事業黒字化に向けてのさらなる基盤強化

4. 業績の推移（1997-2016）



【ご参考】製品区分について

【各製品区分に含まれる主な製品】

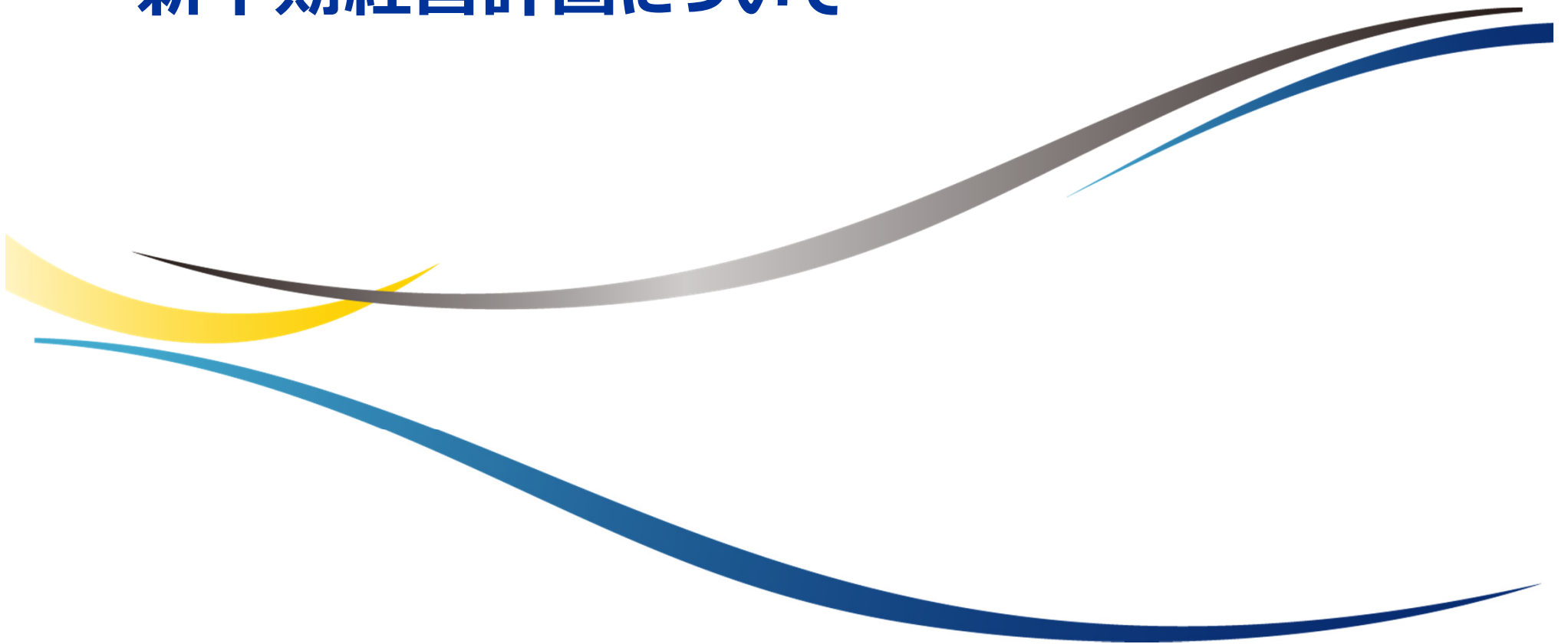
製品区分	主な製品
基板設計ソリューション	CR-8000 Design Force CR-8000 DFM Center CR-5000 Board Designer
回路設計・ICソリューション	CR-8000 Design Gateway CR-8000 System Planner E3.series Cabling Designer Harness Designer
ITソリューション	PreSight/visual BOM Knowledge Explorer DS-2
クライアントサービス他	(各製品の保守サービス)

エレクトロニクス設計ソリューション

電装・制御系設計ソリューション

モノづくり基盤ソリューション

新中期経営計画について



5. 中期経営計画基本方針/重点戦略

- **E/E設計データ管理（PDM）市場開拓**
*E/E: Electrical & Electronic
- **完成車メーカーへの次世代製品導入促進**
- **北米市場、アジア市場での事業拡大**
→ 北米戦略顧客との関係をアジアのサプライチェーンに展開
- **CR-8000 Design Forceで
先端実装市場開拓**
- **機動的なM&Aで、事業の強化・拡大
プラス10億円の売上増目指す**

5. 中期経営計画基本方針/重点戦略

■ E/E設計データ管理（PDM）市場開拓

*E/E: Electrical & Electronic

■ 完成車メーカーへの次世代製品導入促進

■ 北米市場、アジア市場での事業拡大

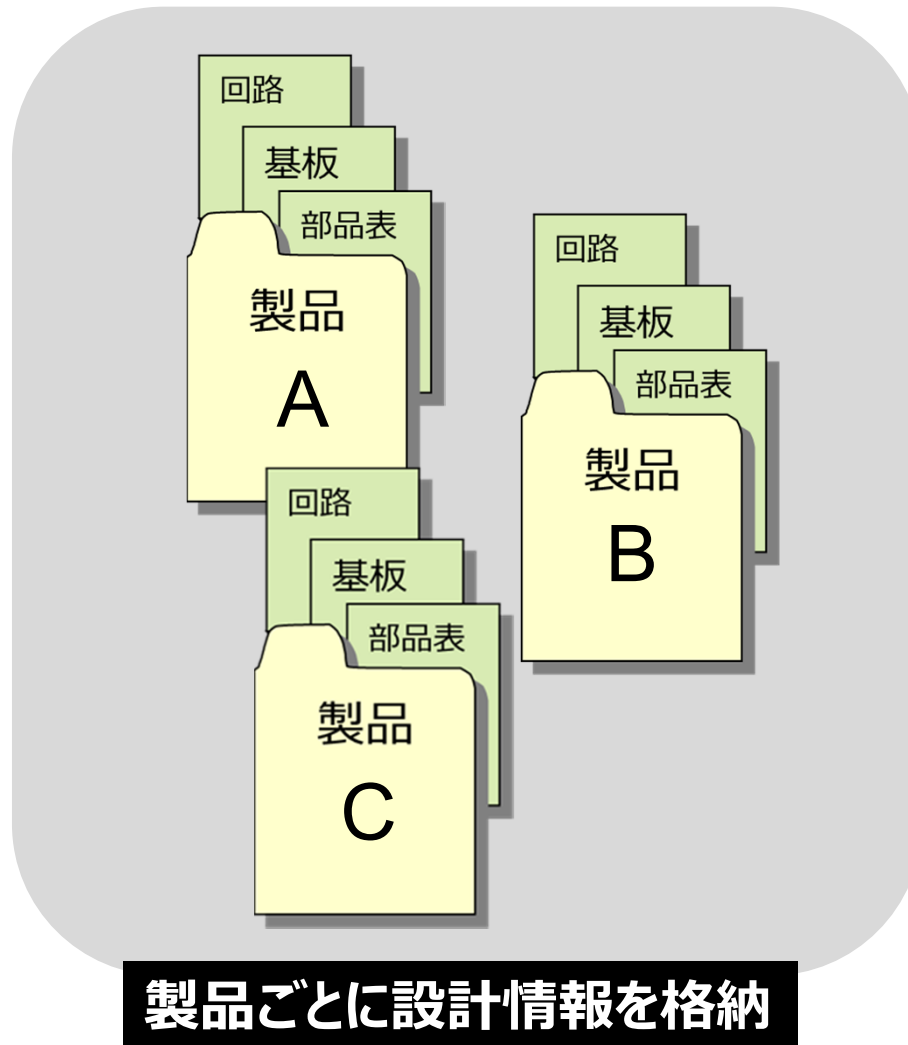
→ 北米戦略顧客との関係をアジアのサプライチェーンに展開

■ CR-8000 Design Forceで 先端実装市場開拓

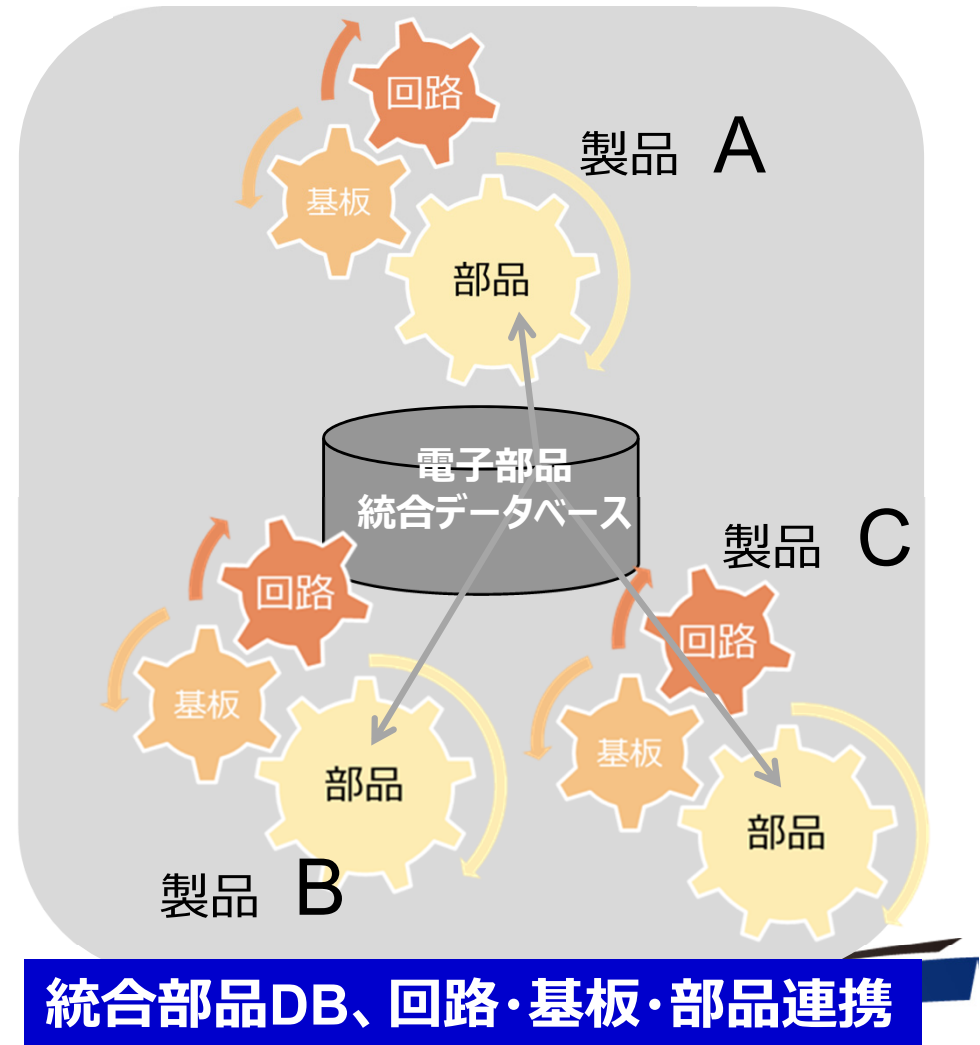
■ 機動的なM&Aで、事業の強化・拡大 プラス10億円の売上増目指す

■ 既存のPDMとE/E専用PDMの違い

既存のメカ系PDM



E/E専用PDM DS-2



■ 既存のPDMとE/E専用PDMの違い

DS-2

QCD最適化の課題例	既存のPDM	「E/E専用」PDM
「製品間、事業部間でバラバラに選定・調達している電子部品を統一してコストダウンを図りたい」	×	○
「設計変更に伴う回路・基板情報の変更を、一括で行いたい」	×	○

図面情報の保管庫としてのPDM

品質・コスト・開発期間を最適化するPDM

【ご参考】「設計データ管理」最新事例

ニュースリリース

米マイクロソフト社が設計データ管理システムとして図研DS-2を採用

(2016/05/10 配信)

株式会社図研（以下、図研）は、米マイクロソフト社Device Divisionが同社の各製品のサプライチェーンを統合したライブラリ・設計データ管理システムとして図研の「DS-2」を採用したことを発表いたします。

「Surface」、「Xbox」、「Band」、「HoloLens」、「Phones」、「Surface Hub」などの製品群を開発するマイクロソフト社Device Divisionは、サプライチェーンとより統合された効率的な設計データ運用を必要としていました。そして同社製品ポートフォリオが拡大する中、設計品質の向上と開発サイクルの短縮を達成していくためには、これらの各製品を跨いだ電気設計CADデータのリユース（再利用）や共有が必要であるとの判断に至りました。また、同社のデザインチームは、サプライチェーンで発生する開発期間や製造性に影響する様々な要因を、より早く把握できることが必要であると考えていました。

マイクロソフト社Surface製品担当エンジニアリングディレクターであるErik von Fuchs氏は、図研の「DS-2」採用の背景と今後の展開について、「『Surface™』製品ポートフォリオの拡大により、電気設計データの効率的な運用管理が設計プロセス改善にとって大変クリティカルな要因になっていました。『DS-2』は、我々が必要とした全ての機能を満たしていました。我々は、『DS-2』が提供する製品間を統合したサプライチェーンの最適化により設計者がその情報を設計段階ですぐに活かすことが可能になることに大変喜んでます。我々は、『DS-2』を使った電子部品ライブラリ情報管理を次の段階に進めようとしています。そして現在その結果に非常に満足しています。」と述べています。

Zuken USAのCEOであるKent McLerothは、マイクロソフト社の「DS-2」採用について、「回路、基板、電子部品、製造データなどのエンジニアリングに關わる様々な情報を適切に管理・運用していくことが、エレクトロニクスメーカーにとって差別化要因になりつつあります。マイクロソフト社による図研『DS-2』の採用はその証左であり、既に成果を出していることは『DS-2』がこの課題に最適なソリューションを提供できることを意味しています。」とコメントしています。

図研は、マイクロソフト社の優れた製品開発に貢献していくため、今後も日本・米国の拠点が協力して、サポート体制をより強化してまいります。



DS-2

図研のE/E設計専用PDM

“『DS-2』は、我々が必要とした
全ての機能を満たしていました”

マイクロソフト社

電気専用PDMのデファクト・スタンダード目指す

ZUKEN
The Partner For Success

5. 中期経営計画基本方針/重点戦略

■ E/E設計データ管理（PDM）市場開拓

*E/E: Electrical & Electronic

■ 完成車メーカーへの次世代製品導入促進

■ 北米市場、アジア市場での事業拡大

→ 北米戦略顧客との関係をアジアのサプライチェーンに展開

■ CR-8000 Design Forceで 先端実装市場開拓

■ 機動的なM&Aで、事業の強化・拡大 プラス10億円の売上増目指す

Zuken Automotive E/E Design Concept

コンセプトムービーを御覧ください。

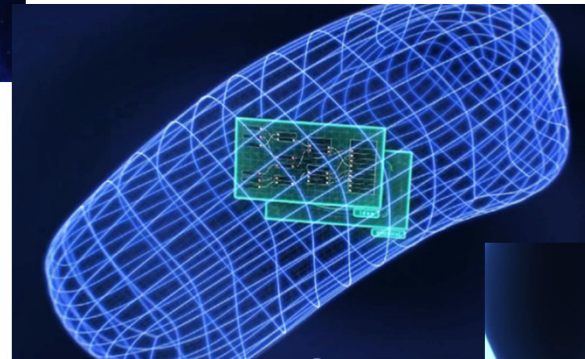


「複雑化する設計要件」



「電装アーキテクチャの作成」

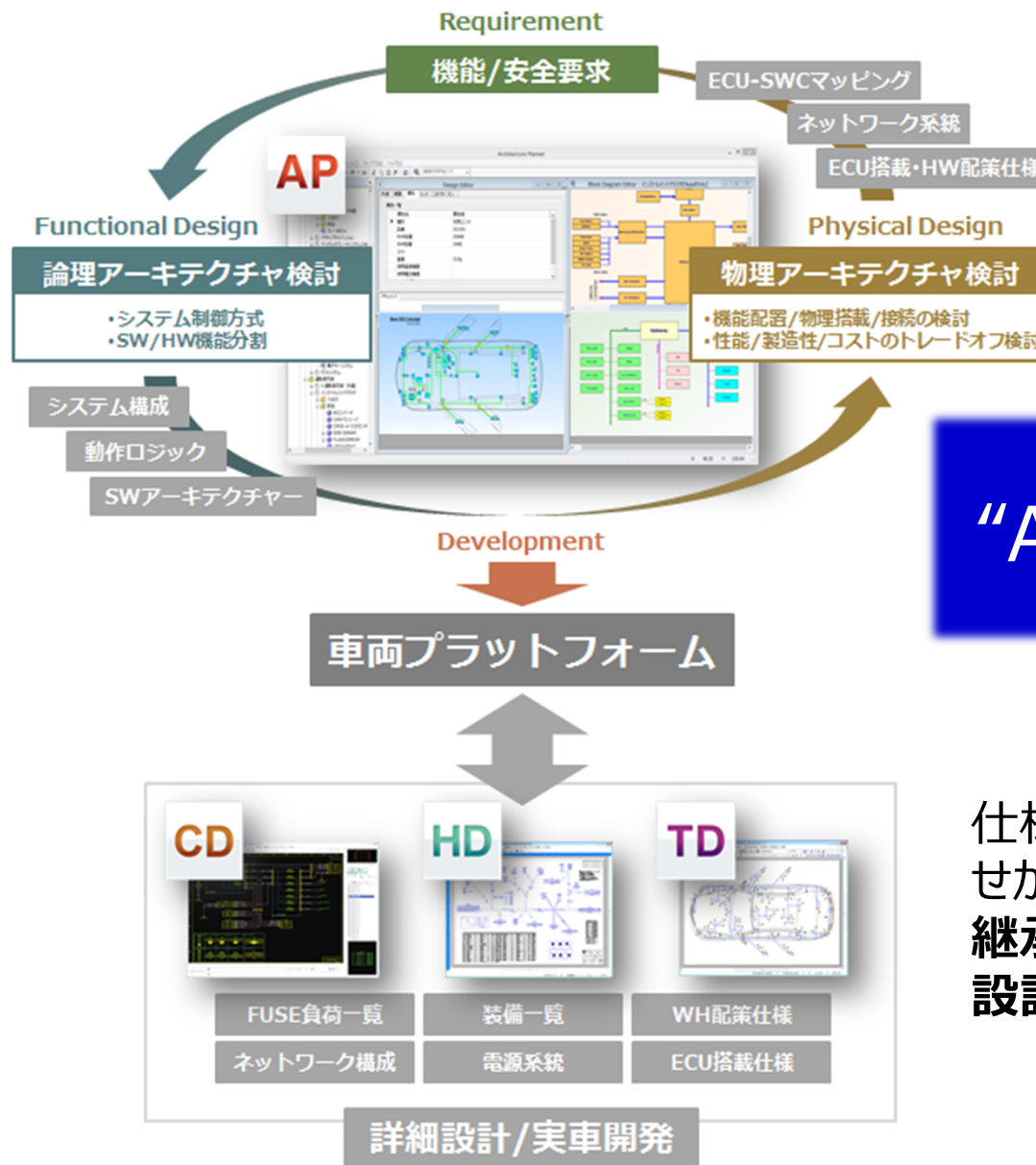
「アーキテクチャを基にしたモデルの設計」



「アーキテクチャを基にした
バリエーション自動設計、分散協調開発」



■ 完成車メーカー向け次世代製品



複雑化する自動車電装設計
の分散・協調開発、
バリエーション設計に最適化

第一弾として
“Architecture Planner”
を今年度リリース

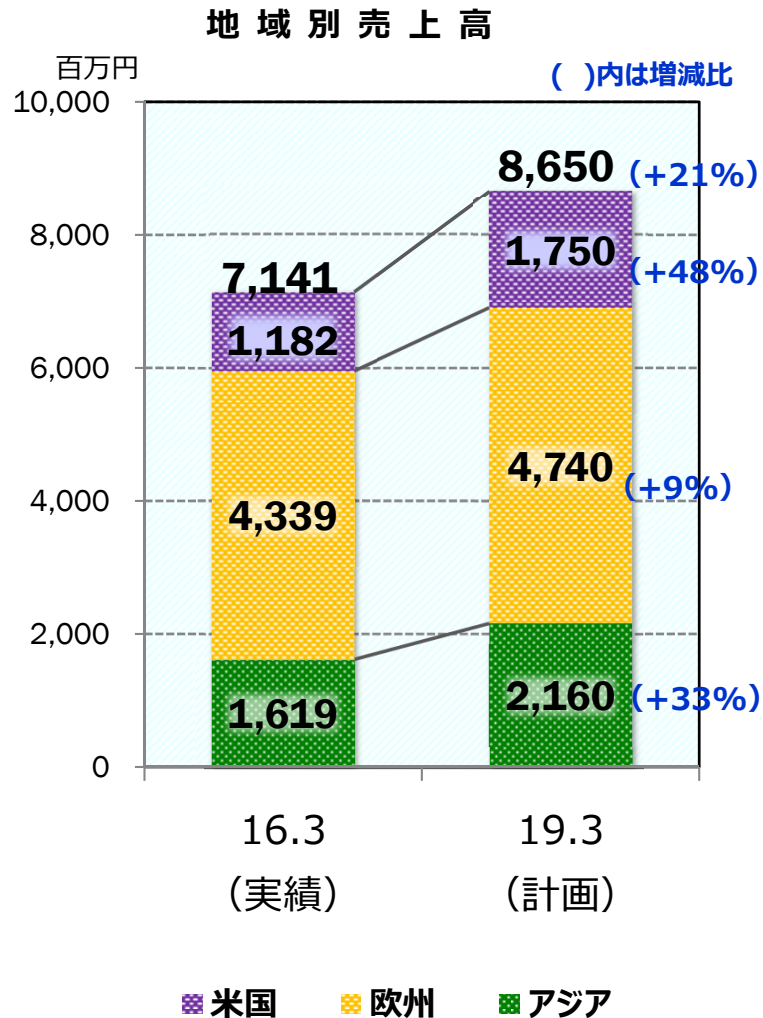
仕様書・図面を基にした分業、すり合わせから、「アーキテクチャ・ドリブン」な、
継承設計・自動（ジェネレーティブ）
設計進化させます。

5. 中期経営計画基本方針/重点戦略

- E/E設計データ管理（PDM）市場開拓
*E/E: Electrical & Electronic
- 完成車メーカーへの次世代製品導入促進
- **北米市場、アジア市場での事業拡大**
→ 北米戦略顧客との関係をアジアのサプライチェーンに展開
- CR-8000 Design Forceで
先端実装市場開拓
- 機動的なM&Aで、事業の強化・拡大
プラス10億円の売上増目指す

■ 海外事業

海外事業



- 【米国】買収したCAETEK社のエンジニアリングリソースを活用したWH設計ソリューション (E3.series) 直販で販売増を目指す
- 【米国】プラットフォーム系半導体メーカーへのCR-8000 Design Forceの導入促進
- 【欧州】CR-5000主要顧客向けCR-8000導入推進
- 【アジア】中国フレックス基板設計製造メーカーへのCAM導入加速とインド市場拡販
- 【共通】設計データ管理ソリューション (DS-2)による「非図研ユーザー」への拡販

5. 中期経営計画基本方針/重点戦略

■ E/E設計データ管理（PDM）市場開拓

*E/E: Electrical & Electronic

■ 完成車メーカーへの次世代製品導入促進

■ 北米市場、アジア市場での事業拡大

→ 北米戦略顧客との関係をアジアのサプライチェーンに展開

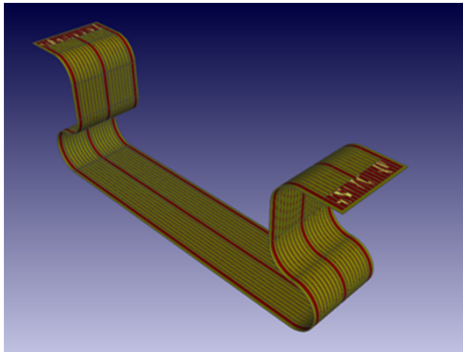
■ **CR-8000 Design Forceで 先端実装市場開拓**

■ 機動的なM&Aで、事業の強化・拡大 プラス10億円の売上増目指す

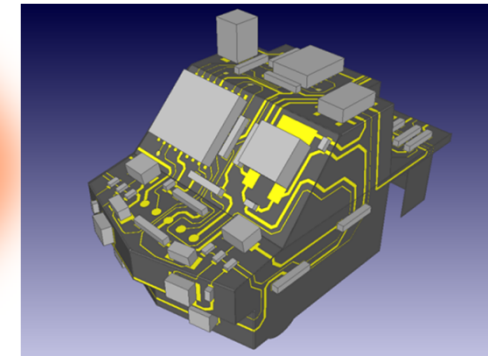
■ CR-8000 Design Force で先端実装市場開拓

IoT時代のエレクトロニクス製品設計

フレキシブル基板設計

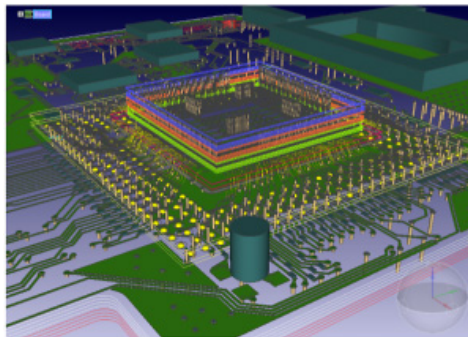


3D MID



モノのインターネット
ウェアラブル 小型・軽量化
省電力 無線通信

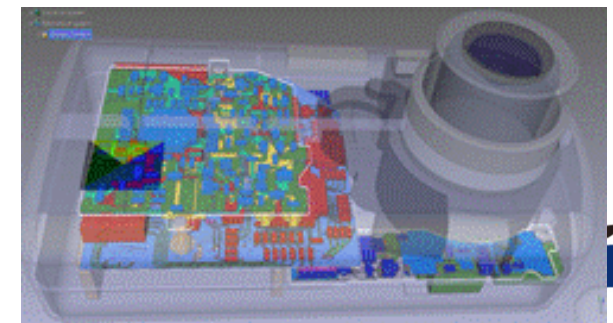
Co-Design (IC-パッケージ-プリント基板)



Design Force

3D描画、マルチドメイン、
メカCAD連携などの機能が
まさに最適

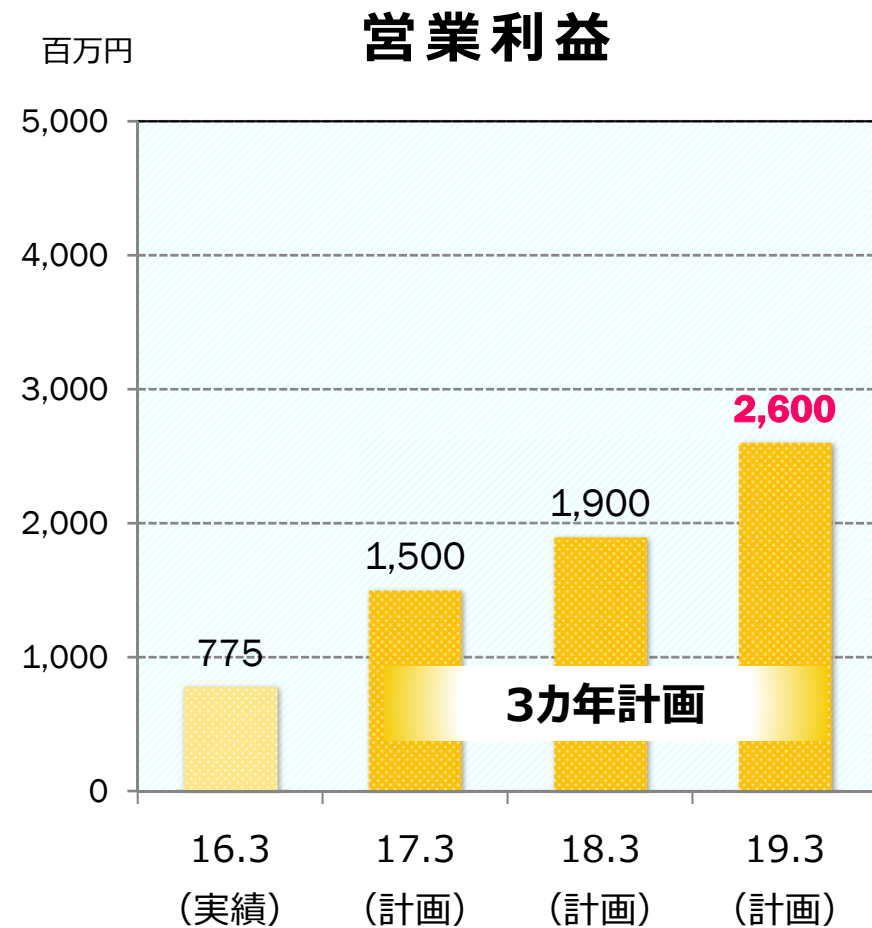
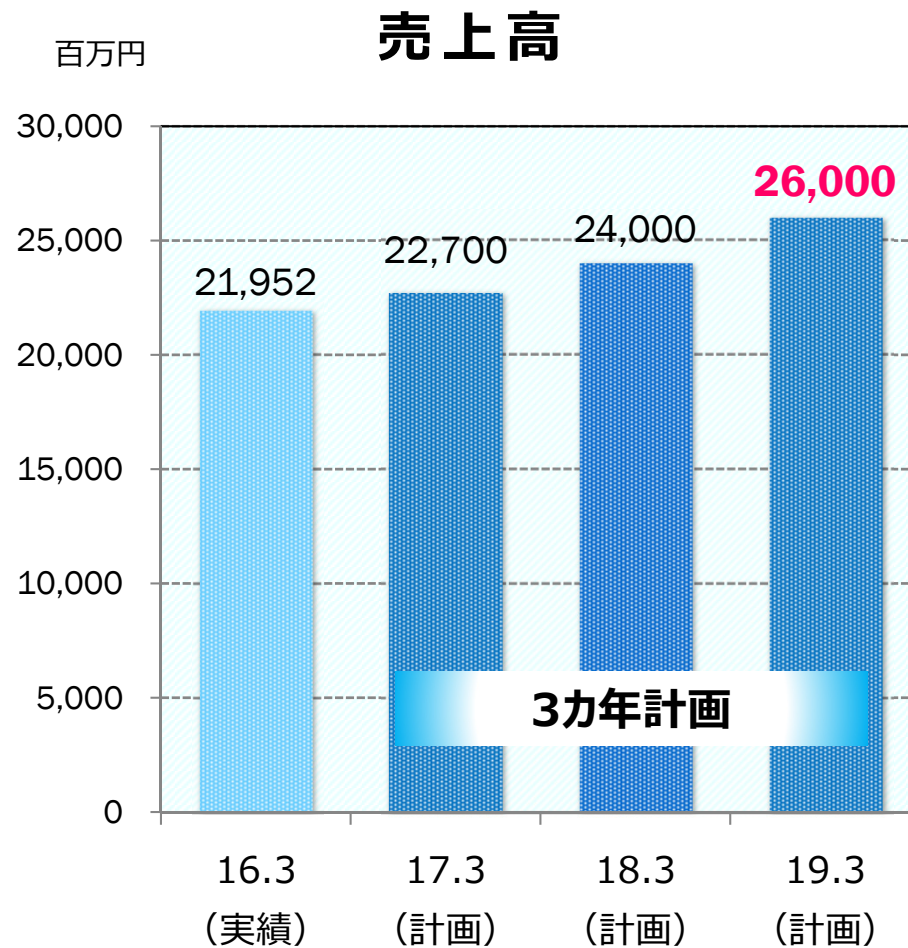
エレキ-メカ協調設計



5. 中期経営計画基本方針/重点戦略

- E/E設計データ管理（PDM）市場開拓
*E/E: Electrical & Electronic
- 完成車メーカーへの次世代製品導入促進
- 北米市場、アジア市場での事業拡大
→ 北米戦略顧客との関係をアジアのサプライチェーンに展開
- CR-8000 Design Forceで
先端実装市場開拓
- 機動的なM&Aで、事業の強化・拡大
プラス10億円の売上増目指す

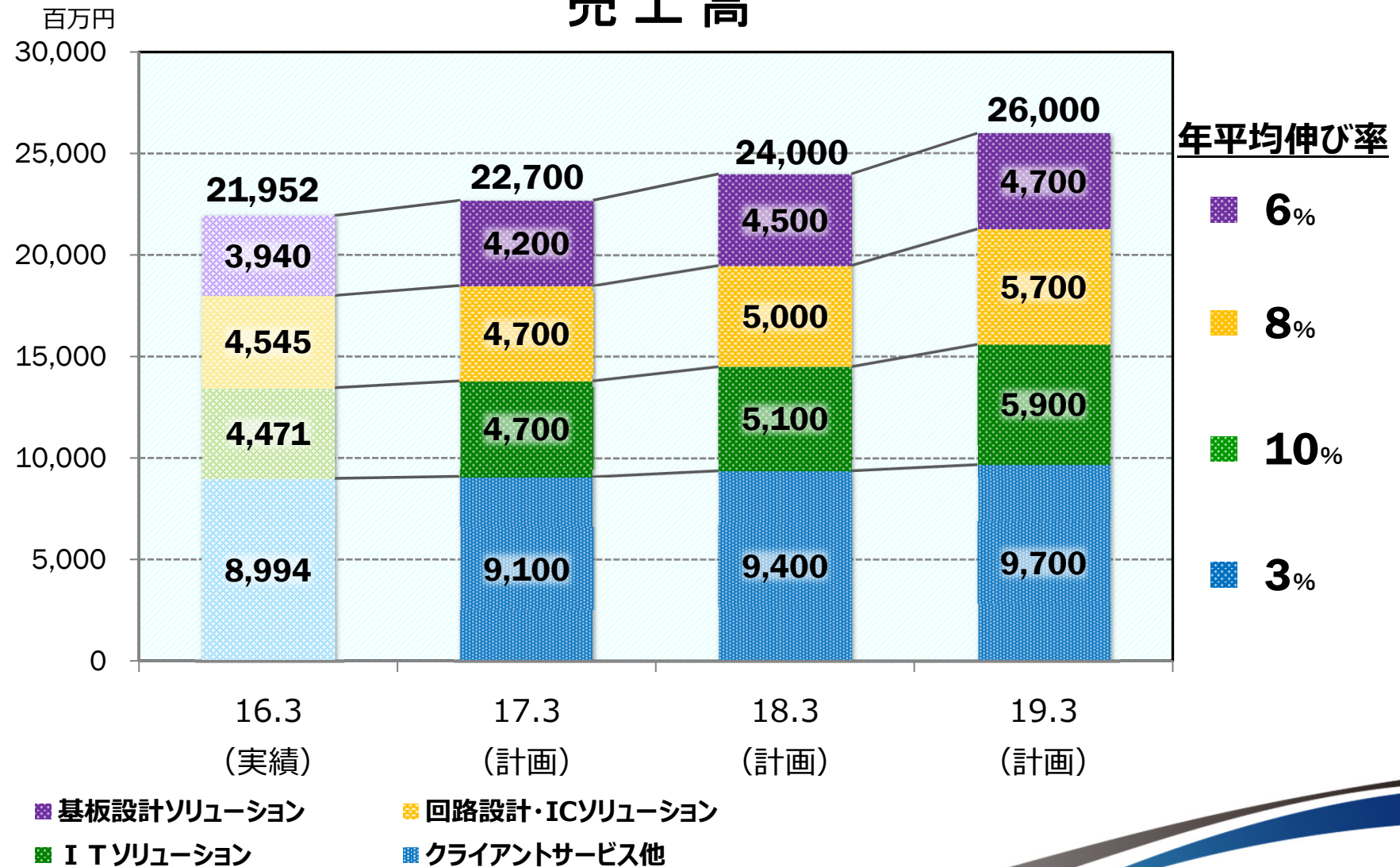
6. 年度別売上・営業利益目標



※ 中期経営計画の前提為替レート 1USDドル=110円 1ユーロ=125円

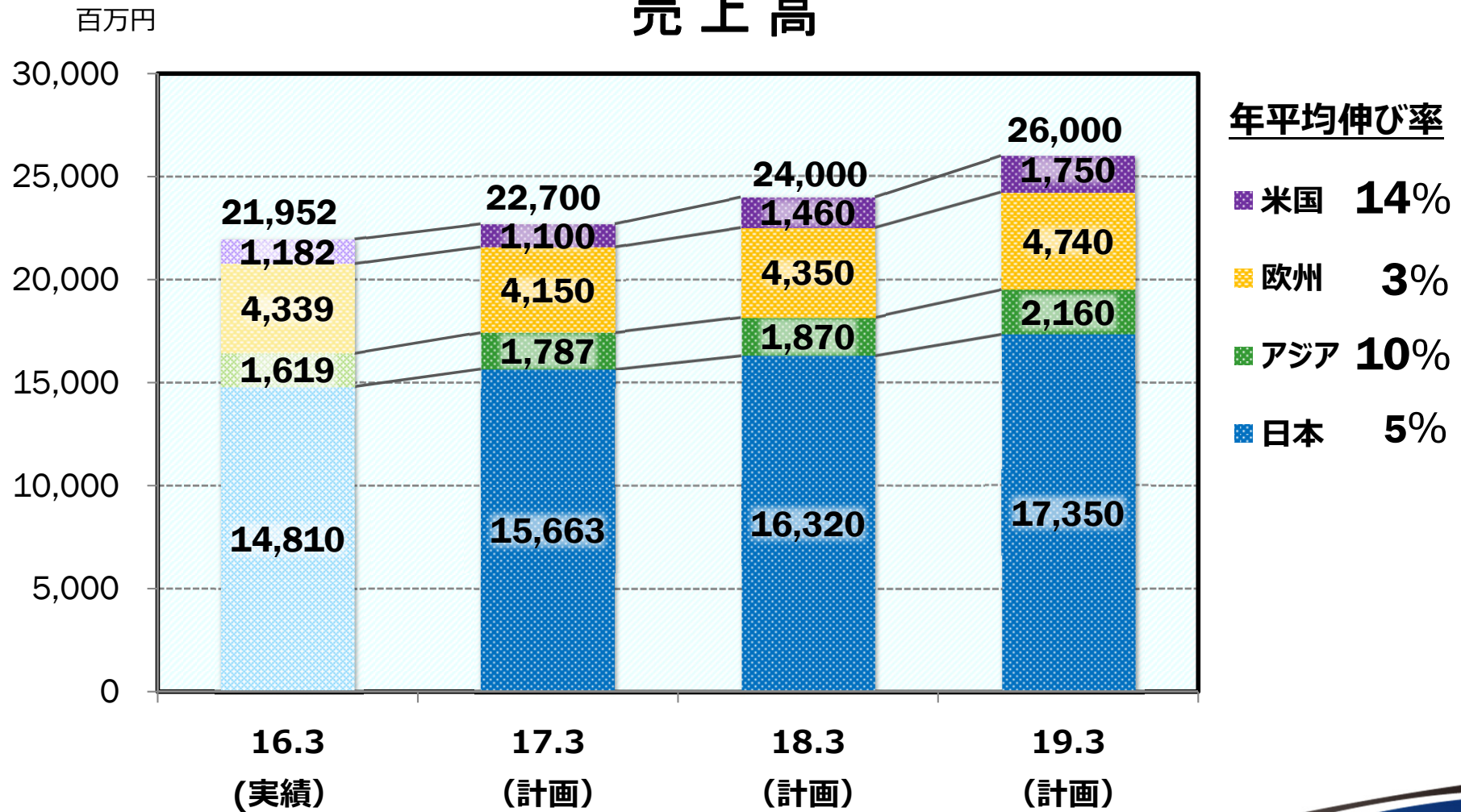
【製品別】

売上高



【地域別】

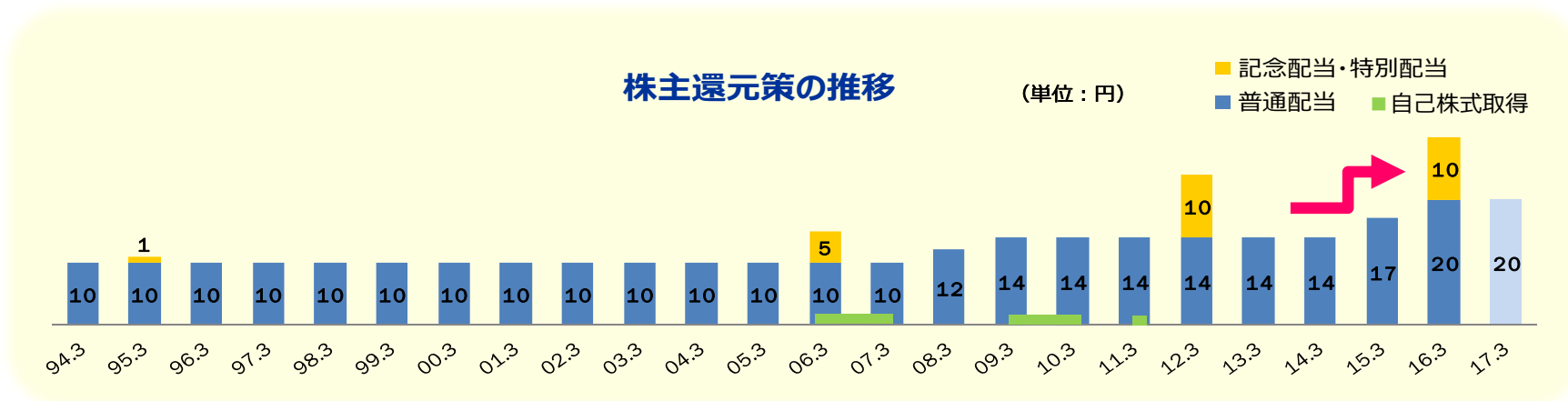
売上高



※ 中期経営計画の前提為替レート 1USドル = **110**円 1ユーロ = **125**円

7. 株主還元策

方針 株主の皆様への利益還元を経営上の重要な政策と位置づけており、経営基盤と財務体質の強化、充実を図るとともに、業績や経営環境等を勘案し、適宜、最も効果的な株主還元策を実施していく



実績 普通配当

1987年の上場以来、年換算1株当たり10円以上の配当を継続。2015年3月期の期末配当は、1株当たり7円から10円に増配。これにより、2016年3月期は年間20円となる。今後も安定的な増額を目指す

記念配当・特別配当

1995年3月期および2006年3月期には記念配当、2012年3月期には特別配当を実施。2016年3月期には記念配当10円を実施

自己株式取得

2005年06月～2006年06月	2,000,000株
2008年11月～2009年11月	636,500株
2011年02月～同年03月	2,000,000株
合計	4,636,500株

(2011年3月消却済み)

ご清聴ありがとうございました。



【ご参考資料】

図研について



会社概要

社 名	株式会社 図研 (ZUKEN Inc.)
設 立	1976年 (昭和51年) 12月17日
資本金	101億1,706万5千円
従業員数	単独453人 連結1,222人 (2016年3月末現在)
株 式	東証1部上場 (証券コード6947)

役 員

代表取締役社長	: 金子 真人	監査役(常勤)	: 和田 扶佐夫
代表取締役副社長	: 勝部 迅也	監査役※	: 尾崎 靖
常務取締役	: 仮屋 和浩	監査役※	: 半田 高史
常務取締役	: 相馬 肅一		
取締役	: 大澤 岳夫		
取締役	: 早乙女 幸一		
取締役※	: 佐野 高志		
取締役※	: 荒井 洋一		

※は社外取締役および社外監査役です。

拠点および国内関連会社

本社・中央研究所

横浜市都筑区

国内拠点

横浜、大阪、名古屋

海外拠点

アジア：5か国、欧米：8か国

国内関連会社

5社

BOM
ソリューション

エンジニア
派遣

PreSight

Zsas

ネットワーク
セキュリティ

ITソリューション
企画・開発

NetWave
もっと速く、もっと安全に

DiverSync

通信ミドルウェア
開発

Elmic



沿革 ①

- 1976 12 株式会社図形処理技術研究所を設立
- '78 06 国産初のプリント基板設計用CADシステム「CR-2000」を開発
- '83 11 米国にZUKEN AMERICA Inc. (現、米国ZUKEN USA Inc.) を設立
- '85 06 株式会社図形処理技術研究所から株式会社図研に社名変更
- '87 06 株式を店頭登録売買銘柄として(社)日本証券業協会に登録
- '88 01 CADの新システム「CR-3000」を開発
- '91 10 株式を東証2部にEDA企業として初めて上場
- '92 01 ドイツにZUKEN EUROPE GmbH (現、ZUKEN GmbH) を設立
- 01 韓国ソウル市にZUKEN KOREA Inc.を設立
- 08 シンガポールにZUKEN SINGAPORE Pte.Ltd.を設立
- '93 08 中国に北京事務所開設
- '94 04 EDA垂直統合ソリューション「CR-5000」を開発
- 06 英国レーカル・リダック社の全株式を買収
- 09 東証1部へ指定替
- '97 05 (株)図研プロセスデザイン研究所 (現、(株)ジーサス) を設立
- 2000 03 独インケイシス社の全株式を買収
- '01 04 図研ネットウェイブ(株)を設立
- '02 06 中国上海市に「上海テクニカルセンター」を設立



本社・研究所 (横浜)



Zuken Ltd. &
Zuken Technology Center, UK

沿革 ②

- '04 02 E&E業界に特化したPLMソリューション「ePLMプラットフォームDS-2」発表
- '05 08 台湾にZUKEN TAIWAN Inc.を設立
- '06 05 独CIM-TEAM社を買収
- '07 06 CATIA V5をベースとした「V54EE」を発売
- '08 06 エルミック・ウェスコムの株式を27%取得、図研の持分法適用会社に
- '09 06 SoC事業部をエルミック・ウェスコムに統合。7月1日から図研エルミックに社名変更
- 06 PLMソリューションの新製品「PreSight」を発表
- '10 05 ラティス・テクノロジー(株)と資本提携、トヨタに次ぐ第二位の株主に
- '11 06 BOMと超軽量三次元フォーマットXVLを統合した「visual BOM」を発表
- 10 次世代電子機器設計システム「CR-8000」を世界で同時発表
- '13 09 アメリカ・シリコンバレーにZUKEN SOZO Centerを設置
- '14 08 グローバル・オートモーティブ&トランスポーテーション・コンピテンス・センターをドイツに開設
- '14 12 東洋ビジネスエンジニアリング(株)と資本業務提携
- '15 02 合併会社(株)ダイバーシクを設立（出資割合 図研51% 東洋ビジネスエンジニアリング49%）
- '15 03 インドにZuken India Private Limitedを設立
- '15 07 (株)ワイ・ディ・シーのCADVANCE事業を承継
- '16 04 プリサイト事業部を分社化し、(株)図研プリサイトとして発足



Zuken GmbH
(Germany)



EMC Technology Center
(Germany)



ZUKEN SOZO Center

< 注意事項 >

本資料に記載されている情報には、将来の業績等に関する見通しが含まれています。これらの見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づいて当社グループにより判断されたものであり、様々な潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。したがって、実際の業績等はこれらの影響を受けるものであり、記載された見通しと大きく異なる結果となることをご承知おきください。実際の業績等に影響を与えうるリスク・要素には、各国の経済情勢、顧客企業の設備投資の動向、市場の需要動向、製品の開発状況、他社との競合、為替レートの変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

なお、本資料に含まれる経営目標は、予測や将来の業績に関する現在の推定を表すものではなく、当社グループが事業戦略を遂行することにより達成しようと努める目標を表すものがあります。

The Partner For Success **ZUKEN**

お問い合わせ先

株式会社 図 研

コーポレートマーケティング室

横浜市都筑区荏田東2-25-1

電話 045-942-1511 (代表)

